

もっと仲良く、もっと好きに！

1回目と同じ場所？それとも違う場所？学校や地域の実態を考慮すると探検の進め方は様々です。同じ場所へ行くのであれば、「内容のレベルアップ」、違う場所へ行くのであれば、「方法のレベルアップ」を考えてみましょう。

ここがポイント

視覚情報を深く探るために、人とかかわる！

子どもは探検で、目に入ってくるもの、つまり視覚情報を捉えます。「これは何？」「どんなことに使うの？」といった疑問は、2回目の探検で解決させましょう。その際、「聞いてみないと分からないよね。」と、その場所にいる人とのかわりにつなげるような教師の問い掛けが必要になります。「聞いてみたら、優しく教えてくれた。」という経験は貴重ですし、「何でも知っている〇〇さんってすごいね！」といった人への尊敬や愛着にもつながります。

ここがポイント

2回目の探検の目的をはっきりさせよう！

1回目の探検を終えた後、「もう1回行きたい？」と聞いたら、「行きたい」と答えるでしょう。そこで、「次は、どんなことを調べたいの？」と問い掛けましょう。すると、「もっと、〇〇が見たい。」や「△△さんと話したい。」、「何か秘密を教えてほしい。」と答えるはずです。

何のために探検に行くのか。その目的をもたせることで、探検の質が変わってきます。子どもの視線やインタビューの言葉にも熱意が溢れてくるでしょう。

あるある NG!

複数回、探検に行くことができるならば、探検の内容をレベルアップさせることも必要です。同じ目的で探検を繰り返しても楽しいだけの探検に終わり、子どもの育ちは見られません。

1回目は「もの」「こと」を調べて、2回目は「人」に着目するなど、発展させていくことが大切です。店で働く人であれば、「手」「目線」「言葉」に着目させる工夫もできます。

Active

「人」「もの」「こと」で分けて、発見したことをカードや付箋にまとめる際に、色を分ける方法もあります。色を分けることによって、「赤色が少ないから、次の探検では『もの』について調べて来たいな。」と新しい目的をもちやすくなります。

気付き！

探検を繰り返していくうちに、目の付け所が変わってきます。着目するポイントを絞ったり、普段は見えていない部分を探ってみたりするなど、今後の生活科の時間だけではなく、どの学習でも物事を幅広く見るできるようになってきます。

そのためには、子どもの気付きを価値付けることが大切です。どんな発見が良かったのか、良い気付きを見取り、それを子どもに返すことで、気付きの質は更に高まっていきます。